



日立一高ラグビー部OB会 会報

<http://www.ichiko-rugby-obc.com>

○ 日立一高ラグビー部の監督が交代しました！！

本年4月に、新任の多辺田正樹先生が日立一高に着任され、第7代のラグビー部監督に就任。平成19年4月から5年間ご指導いただいた橋本晃輝先生は、茨城県教育庁保健体育課から(財)茨城県体育協会本部に転出されました。多辺田監督は清真学園から日体大に進学され、本年4月に県教員となったばかりのフレッシュな熱血先生です。また、橋本監督は、就任当時、公式戦出場がようやくだったラグビー部を、情熱溢れる指導でベスト8に定着するまでに導いてくださいました。

橋本前監督のご尽力に心から感謝するとともに、多辺田新監督をOB一丸となって盛りたてていきましょう。お二人から、それぞれごあいさつをいただきます。

「新任ごあいさつ」 多辺田 正樹 新監督



この度、日立一高に赴任して参りました多辺田正樹と申します。

近年、ラグビー人口が減少し、本県においてもラグビー部のある高校、単独で大会に出場できる高校が数少なくなる中で、歴史と伝統のある「日立一高ラグビー部」で指導ができる幸運に恵まれ、大きな喜びを感じております。

と同時に、大きな責任もまた感じております。

橋本前監督が築かれた「展開ラグビー」に、より磨きをかけ、指導者・部員一丸となり、「花園」への挑戦に全力を尽くしていく決意ですので、ご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

《プロフィール》

昭和58年11月生まれ(28歳)

清真学園中～清真学園高校～日本体育大学 (すべてラグビー部に所属 ポジションはフッカー)

「退任ごあいさつ」 橋本 晃輝 前監督



日立一高ラグビー部OB各位におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私は4月の定期異動で茨城県体育協会へ着任いたしました。時が立つのは早いもので、新年度がスタートして、もう半年ほど経とうとしています。今回、日立一高に勤務した5年間を振り返り、私は改めて素晴らしい環境で過ごせたことを皆さんに感謝したいと思います。素晴らしい環境とは、やる気のある部員達と多くのスタッフ(OB、父母会、賛助会の皆様)に囲まれてラグビーができたことです。多くの方々と関わりを持ち、ラグビーを通して楽しい時間を共有できたこと、そして、その中で新しい発見・刺激をたくさん頂き、とても充実した日々でした。一番感じたのは、仲間意識です。一つの目標に向かって進む過程で一生懸命になれる仲間がいることは、私が頑張ろうとするうえで、とても大切なモチベーションとなりました。日立一高ラグビー部ではそれを感じることができました。部員達も感じていることなのでしょう。公式試合で見せる気迫のこもったプレーは、普段の学校生活では見ることでできない一面で、その表情はとても豊かで魅力的で輝いていました。これからも大切にしていきたいです。そして、現状に満足することなく、自分を徹底的に鍛え上げて、ゆるぎない自信を胸に邁進することを期待しています。これからは、OBの一人として日立一高ラグビー部に関わっていきたいと思います。

最後に、全国大会予選において活躍を期待する後輩諸君へ、

「男はやるときはやる、キメるところはバシッとキメないとカッコがつかないぜ！」

5年間の想いを胸に、私は新しい場所でチャレンジします。大変お世話になり、ありがとうございました。

○「付属中学校」にラグビー部が設置されました。

日立第一高等学校に併設された「付属中学校」に、ラグビー部が設置され、顧問の萩原知樹先生の下、学業との両立をモットーに、元気に練習に励んでいます。

現在部員は3人、うち2人は日立ラグビースクール（ラグビー少年団）出身です。

夏までは、部員＋先生＝4人での練習が中心でしたが、秋以降は、日立ラグビースクールのU15（中学生）の練習への参加も計画しています。

OB会としても、「金の卵」が大きく育つよう、できる限りの支援をしていきたいと思っています。

○平成24年度 学年幹事会 開催報告

前年度の事業報告や本年度の事業計画等を審議する学年幹事会を7月7日（土）に出席者27人（学年幹事21人、賛助会員2人、父母会3人、監督1人）で開催しました。

平成23年度事業報告・決算は原案どおり承認。平成24年度事業計画及び予算については、ゴルフコンペの継続に関し改めて役員会で検討することとし、それ以外は原案どおり承認されました。

（その後、9月に役員会を開催し、今年度はゴルフコンペを継続実施する旨を決定しました。）



1. 平成23年度活動報告

1-1 主な支出の状況（実支出額）

（単位：千円）

	予算	決算	比較	内 容
1) 学年幹事会	60	69	+9	33人参加
2) 役員会	20	34	+14	多辺田監督との顔合わせ会
3) OB会報発行	130	140	+10	10月に第14号を発行
4) 各大会への資金援助	80	80	0	
5) 菅平遠征への資金援助	80	50	-30	
6) 菅平への指導員派遣	50	50	0	
7) ミニ合宿への資金援助	60	60	0	秋・春ともに実施
8) ゴルフコンペ開催	30	12	-18	参加者から寄付多数
9) 蹴り初め開催	0	-18	-18	OB戦及び交流会（豚汁）
10) 交流・親睦会	60	145	+85	新旧監督の歓送迎会を実施
11) 慶弔費	20	0	-20	
12) 事務費	50	55	+5	事務用品購入、郵送料等
13) その他（予備費）	10	23	+13	スクラムマシン補修等
計	650	700	+50	予算枠を超過

※本県で開催される関東大会出場を目指し、例年以上の強化体制で臨みましたが、残念ながら私立4強の一角を崩すことはできませんでした。

1-2 主な収入の状況（懇親会参加費、御芳志、預金利子等を除く。）

（単位：千円）

	年会費		広告料		計
平成19年度	455	101人	—	—	455
平成20年度	430	125人	260	15件	690
平成22年度	356	108人	244	16件	600
平成22年度	382	95人	215	13件	597
平成23年度	361	108人	215	11件	576

1-3 会計報告(収支総額)

	予算(円)	実算(円)	増減(円)
前年度繰越	829,722	829,722	0
当年度収入	650,000	576,135	△73,865
当年度支出	650,000	699,827	49,827
次年度繰越	829,722	706,030	△123,692

※年会費納入者は前年度より23人増加しましたが、納入額が減少したこともあり、収入が目標金額の650千円に達せず、支出も予算枠を超過したため、繰越金が前年残高より124千円減少しました。

2. 平成24年度 事業計画及び予算

2-1 重点方針

- 1) 収入の確保と予算枠の厳守
- 2) 現役の活動支援
- 3) 父母会との連携強化

2-2 支出の部

(単位:千円)

	H23 決算	H24 予算	内 容
1) 学年幹事会	69	60	
2) 役員会	34	20	中高一貫教育校への対応検討
3) OB会報発行	140	140	9月に第15号を発行予定
4) 各大会への資金援助	80	80	
5) 菅平遠征への資金援助	50	50	
6) 菅平への指導員派遣	50	50	
7) ミニ合宿への資金援助	60	60	秋合宿、春合宿
8) 茗溪×清真OB戦への参加	12	50	新規事業
9) 蹴り初め開催	-18	0	OB戦及び豚汁
10) 交流・親睦会	145	80	秋合宿BBQ、新年会等
11) 慶弔費	0	20	
12) 事務費	55	50	事務用品購入、郵送料等
13) その他(予備費)	23	10	
計	700	670	前年比 -30千円

2-3 収入の部

(単位:千円)

	年会費		広告料		計
平成23年度予算	400	105人	250	16件	650
" 決算	361	108人	215	11件	576
平成24年度予算	380	110人	220	12件	600

3. 役員改選

会 長	尾 又 篤 (昭和36年度卒)	幹 事	鶴 巻 仁 (昭和57年度卒)
副会長	村 山 功 (昭和42年度卒)	"	黒 澤 次 郎 (昭和58年度卒)
"	武 藤 達 也 (昭和45年度卒)	"	菊 池 敬 (昭和61年度卒)
"	益 子 俊 志 (昭和53年度卒)	"	高 橋 晃太郎 (昭和61年度卒)
幹事長	木 下 俊 雄 (昭和54年度卒)	"	本 田 浩 一 (平成2年度卒)
幹 事	松 永 啓 (昭和40年度卒)	"	尾 又 彰 彦 (平成2年度卒)
"	黒 沢 祐 士 (昭和50年度卒)	監 事	山 本 宏 (昭和51年度卒)
"	照 沼 康 彦 (昭和52年度卒)	"	笠 井 知 洋 (昭和59年度卒)
"	柴 田 和 則 (昭和57年度卒)	事務局長	金 澤 勉 (平成4年度卒)

○ 平成24年度 菅平遠征報告

監督 多田 正 樹

毎年恒例の夏合宿を、菅平高原で8月2日(木)～6日(月)の日程で行いました。

今年は、太田(群馬)、武豊(愛知)、湘南(神奈川)、県立千葉(千葉)、桂(山梨)、千葉経済大附(千葉)、甲府工業(山梨)と対戦しましたが、関東大会に出場する実力校や、進学校など様々な面において私たちが目標とすべきチームばかりでした。

3年生が抜けて、1年生もメンバー入りする新しいチームは、細かな部分よりも、まずは一人一人が役割を果たし、ファイトするといった目標を持ち、合宿に臨みました。

初日からケガ人が続出するなどのチーム事情もありましたが、個人のタックルなど基本的なプレーの精度に課題が見られ、苦しいゲームの連続でした。

今後はもう一度、基本的なプレーの精度を見直し、秋には、目指している「大きくボールを動かすラグビー」ができるよう、練習に励んでいこうと思います。

また、今回も遠方までOBの方々や父兄の方々にお越し頂き、熱い声援や、指導を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

8月2日(木) 武豊A 12-5 日立一A ×
武豊B 5-0 日立一B ×

太田A 19-0 日立一A ×
太田B 0-10 日立一B ○

3日(金) 湘南A 21-26 日立一A ○
湘南B 12-17 日立一B ×

4日(土) 県立千葉A 59-7 日立一A ×
県立千葉B 0-7 日立一B ○

5日(日) 桂 A 36-0 日立一A ×
桂 B 12-0 日立一B ×
千葉経大付 0-22 日立一A ○

6日(月) 甲府工業 53-7 日立一A ○



○ 今年度の現役部員の戦績

【平成23年度全国高校総体(兼)第91回全国高校ラグビー大会茨城県予選】 ※前号に未掲載のため参考

2回戦 日立一 54-21 東洋大牛久
準々決勝 日立一 5-57 つくば秀英

【平成24年度茨城県高校ラグビー新人大会】

1回戦 日立一 86-0 水戸一
準々決勝 日立一 7-106 茗溪学園
順位決定戦 日立一 142-0 つくば国際大東風
5位決定戦 日立一 43-14 水城

【第60回関東高校ラグビー大会 茨城県大会】

2回戦 日立一 38-17 勝田工
準々決勝 日立一 19-31 つくば秀英
5位決定戦 日立一 146-0 合同B

【平成24年度県民総体(兼)第66回国体ラグビー茨城県大会】

《Aブロック》

1回戦 日立一 38-7 勝田工
決勝 日立一 64-0 東洋大牛久



【平成24年度 新人戦 v.s. 水戸一高】



【平成24年度 関東予選 v.s. 勝田工高】

○「蹴り初め」を開催しました

新春恒例の「蹴り初め」を1月3日（火）に日立一高グラウンドで開催しました。

暖かな好天に恵まれ、老若合わせて120人を超えるOB・関係者が集まり、新年あいさつの後、午前10時から20代・30代・40歳以上の3チームを編成してOB戦を行いました。例年になく20代の若手OBが多数集まり、現役との間に活気ある試合が展開されました。

1ラウンド目の20代OBチームは、一進一退の好ゲームとなりましたが、深谷竜二郎（東海大2年）がレベルの違う走りを見せるなど、トライ数2-1で現役を撃破！

例年だとこの時期は現役も怪我人などでメンバーが揃わないことが多いのですが、今年はOBで補強する必要もなく、2ラウンド目以降の30代や40歳以上のOBチームに対しては、現役が若さと走力で圧倒。新人戦に向けて期待を抱かせる仕上がりでした。

試合終了後は、早朝から保護者達が作ってくれた豚汁を食べて解散。保護者の皆様、寒い中早朝からの準備ありがとうございました。

今年の反省点は、せっかくグラウンドに来てくれたのにポジションの偏りもあり、10分程度しか試合に出られないOBがいたことです。

来年は4ラウンドを前提に日程を組もうと思いますので、更に多くのOBの皆さんに御参加いただけるようお願いいたします。



○ 第8回OB会長杯ゴルフコンペの開催について

スポーツの秋到来、ゴルフシーズンがやって参りました。恒例となりました日立一高ラグビー部OB会の第8回ゴルフコンペを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようお願いいたします。

今迄に参加している方にはご案内を差し上げておりますが、参加したことのないOB会員の方で今回参加したいという方は下記宛ご連絡ください。折り返し今回の詳細なご案内をお送りいたします。

1. 日 時 11月10日（土）午前9時集合
2. 場 所 勿来TAIGAカントリークラブ
3. 費 用 10,000円（昼食代、プレイ後のパーティ費・賞品代含む）
4. その他 今回も、ゴルフ終了後の『宿泊会』は実施しません。

【ゴルフコンペ幹事：村山 功、TEL：090-1259-3197】

○ OB通信

このコーナーは、OBの方々に昔の思い出や近況等のご紹介をいただいています。今回は、根本雅章さん、志賀和義さんにお願しました。お忙しい中ありがとうございました。

「ラグビーに生かされてきた」 根本雅章（昭和54年度 第32回卒）

日立一高でラグビーに出会った時は偶然だと思った。しかし、その後の人生を振り返ると、運命だったとしか思えない。

改めて、卒業からの人生を振り返ってみた。

同期がラグビーでの大学進学を決めていく中で、結局浪人生活をする事になった。

この時は、花園で大工大高に負けたショックに、更に追い打ちをかけられたような記憶がある。ところが、水戸の予備校に通ううち、花園での悔しさを受験にぶつけるという気持ちの持ち方を見つけ、その後のターニングポイントでの戦い方の一つになった。

人生の大勝負でもあった一浪後の大学受験では、第一希望の大学へ進学し、新たなラグビー生活を送ることになった。結果的には、鳴かず飛ばずの大学ラグビーではあったが、4年間を終え、日立一高ラグビー部での仲間に加え、



筑波大学ラグビー部の仲間を得て、社会人となった。

入社した会社にはラグビー部はなかったが、たまたま社宅の近くで活動していたクラブチームを見つけ、入ることにした。早稲田大学のラグビー部に憧れる素人？チームだったが、それまでのハイレベルのラグビーとは違う寄せ集めの練習・試合に新たな面白さを発見したので覚えている。

北海道へ転勤すると、営業先の顧客企業で偶然にもラグビー部を立ち上げることとなり、ラグビー話で盛り上がっていた顧客のキーマンよりプレイングマネージャーの打診があり、特別に入部。

取引先のラグビー部での生活は、これまた刺激的だった。

仕事とは一線を画していたが、結果的にはラグビー部の仲間の後押しされたように、多くの新規受注を繰り返すという成果をもたらした。

社会人としての大ピンチもあった。ニュースにも何度も取り上げられ、社内でも責任を取らされることは間違いないと思っていた。その時は、もうダメだと思ったが、高校や大学のラグビーの仲間から多くの応援の言葉や飲み会に誘われ、そのたびにうれし涙にくれた。それも今となっては笑い話になっている。

ちょっと思い出ただけで、多くの局面でラグビーと偶然にも再会し、そのたびに今に続く仲間が増え続づけ、そして助けられた。

そして、今は？と言うと、これも偶然住んでいる町で練習している不惑のラグビークラブを見つけ、毎週の練習と1ヶ月に1回ベースの試合を行い、また新たな仲間が増殖中だ。

OB会の皆さんはいかがだろうか。過去のOB通信を見直すとそれぞれ似たような感想をもっているような気がする。皆さんもラグビーの経験やラグビーの仲間達に生かされてきたのではないだろうか。

そして、51歳となった今、原点である日立一高ラグビーの後輩たちを応援すべく、東京地区で懇親会活動を立ち上げようと思っている。まあ、単なる飲み会をするだけではあるが。

それでも一度集まってみて改めて気づいたが、日立を離れたOB達もきっかけさえあれば、後輩を応援し、また夢を目指したいと思っているのだ。

今では、インターネットで世界中とリアルタイムにつながるできるようになった。FACEBOOKで日立一高ラグビー部のページを作ってくれているので、海外で働く同期ともネット上で再会した。どんな形であれ、それぞれの地域・立場で応援のネットワークが広がることは楽しいので、これからはより積極的に関わっていきたいと思っている。

皆さんも参加しませんか。

「部歌」 志賀 和義（昭和60年度 第38回卒）

私の部屋の机の下には、昔懐かしい日立一高ラグビー部の黒エナメルバッグがひっそりと置いてある。

しかも、バッグの中にはかなり色褪せた試合用の短パンとソックス、クラスメート手作りの横断幕がきちんと畳まれて入っている。

遠い昔の記憶をたどってみると、3年生になり臨んだ全国大会県予選の決勝戦に敗れ、いつしか返すタイミングを失い、ずっと手元にあるという訳だ。試合用ジャージはきちんと返してあるはずだから、時効にして許してもらおうと思う。この機会に。

さて、懐かしい品物を手に取りながら日立一校ラグビー部への思いを少し話してみたいと思う。

練習が終わり、正門前のブリアンでジュースを飲みながらくだらない話で盛り上がった仲間達。今はヤマザキになっているのが少しさびしい。

帰り道、「死なない程度に車にはねられれば、合宿に出なくてもいいかな。」なんて、冗談とも本気ともつかない話しをした恐怖の夏合宿。皆平の水は格別にうまかった。滑川先生にメガホンが弾け飛ぶほど叩かれたのは何人いたのだろう。

何年たっても全てが鮮明に浮かんでくる。しかし、中でも日立一高ラグビー部と言えば「部歌」。私の中ではこれに尽きる。

それを決定付けたのが、高校生活最後の試合となった全国大会県予選決勝戦前の部歌である。堀原運動公園のスタンド下、試合を前に全員で叫び歌った。

気持ちが高まり、自然と涙がこみ上げ、全員が泣きながら歌った。部歌で仲間の気持ちがひとつとなったこの瞬間が、私の高校生活の集大成であった。

最近は部歌を歌う機会もめっきり少なくなっていた。でも決して忘れてはいない。



この巻、長男が日立一校ラグビー部に入学したこともあり、そろそろ教えてやろうかなと一人ほくそ笑みつつ、彼も私と同じような思いで仲間と部歌を歌ってもらいたいと願っている。

○ 父母の会だより

父母の会会長 鈴木 茂夫さん（3年生：鈴木圭汰君の父）

父母の会会長を務めさせていただいております鈴木茂夫と申します。

日頃より、日立一高ラグビー部OB会の皆様方には、大変お世話になっております。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

さて、今年は、5月の関東大会予選で、残念ながら、関東大会出場を逃しました。

スポーツの世界には、「たれば」はありませんが、色々と考えさせられる試合であり自分にとっても、おそらく選手達にとっても忘れられない試合になったことと思います。

私事でありますが、息子2人が伝統ある日立一高ラグビー部でお世話になり、最後には、父母の会会長まで努めさせていただきました。ラグビー、そしてOB会の皆様、橋本先生、照沼先生、多田先生、ご父兄の皆様に出会ってくれた息子達に感謝しております。

おそらく、このOB会報を読むであろう1・2年生の皆さんへ、難しいことは言えませんが、高校生活は2度とありません、後悔しないように最後まで頑張って下さい。

最後になりますが、OB会の皆様方におかれましては、今後とも引き続いての現役選手へのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



○ 特別寄稿 「日立一高ラグビー部起源」 ALL FOR ONE, ONE FOR ALL

岩路 善充（昭和23年度 第1回卒 故人） 編集責任 長女 島田 充子（昭和53年卒）

昭和21（1946）年11月、新たにGHQ主体で創られた日本国憲法が公布された。しかし、新憲法が施行され、学校で復興祭が行われても、絶対的な目標を失った生徒たちの心は荒んだままだった。特に戦時中に精神文化の薫陶を受け、国粹主義に洗脳された生徒たちはタバコを吹かしたり、やたらと喧嘩をしたりと、不良化が目立ち始めていた。

ある肌寒い日の放課後だった。私たち多賀地区から通学していた者たちが5、6人、国旗掲揚場で北風を凌いでタバコを吹かしながら雑談をしていた。そこへ、大和田先生がやって来るのを誰かが見つけた。

「おお、幡ちゃん（さん）がくるぞ」と注意してくれたが、先生はすでにすぐ近くに現れ、後ろから無造作に私の肩に両腕を乗せて寄りかかってきた。あわててタバコの火を消したが、先生はタバコには一言も触れず、「おいお前ら、こんな処で縮んでいないで、ラグビーでもやらんか」と言った。そして、私たちの目の前にアメリカンフットボールのボールを差し出した。

「ラグビーですか」皆はキョトンとして、先生を見つめた。大和田先生は名を幡市郎（さんいちろう）と言った。日中を卒業後、東京師範学校へ入学したが、学徒兵として出征し、長い捕虜生活を経て、昨年の4月に赴任してきたばかりだった。

いわば、日中の先輩でもあり「幡ちゃん、幡ちゃん」と生徒たちから親しまれていた。

「そうだ。岩路、お前は予科練に行っていただろう。予科練では闘球と呼んでラグビーをやっていたはずだが」

「ああ、佐藤国ちゃんなら、予科練でやっているかも知れねえな」と誰かが言った。

「そうだなあ、彼なら海軍の歴戦の強者だ。佐藤君をキャプテンにしてやってみよう」という大和田先生の言葉が引き金になって、私の中でも予科練生活の敢闘精神がむくむくと頭を持ち上げてきた。

「先生がコーチをしてくれるならやってもいいよ」と私は言下に言ってしまった。

「いやあ、俺も高等師範ではラグビーを謳っていたんでなあ。どうだ。やれよ、面白いぞ」

大和田先生は早速、その場にいた不良グループを集めてボールのパスワークを教え始めた。やがて、佐藤国夫君をキャプテンに迎え、山本章君、山本博之君、佐々木圭吾君、大森茂君、小田部磨男君、鈴木四郎君などを中心に13～4名が集まったのである。

しかし、ボールは一個しかなく、運動靴なんていう履物もなく、ユニホームもなかった。おまけにグラウンドは防空壕を掘ったり畑にしたりして、一面に小さな小石が入り混じっていた。私たちは長ズボンを半分に切ってパンツを作ったが、上半身は裸であった。裸で素足でラグビーを始めたのである。ズックの運動靴は、ボールを蹴ったりドリ



ブルすると直ぐに破れてしまい使いものにならなかったし、本式の革のラグビー靴は高価で買うことが出来なかった。

当初は自主的なラグビー愛好会として始めたので学校からは予算も付かなかった。そこで早く部活動として認めて貰おうと、パスワークを覚えると、早速、会瀬グラウンドで日立製作所日立工場のラグビー部と試合をした。

メンバーが足りず豊田一男君を巻き込み、大和田先生にフルバックをやってもらい、やっとメンバーを揃えた。豊田君などは「タックルされたらどうしたら良いんだ」と聞いてくる始末だった。日立工場の連中は、私たちの格好を見て驚いた。

「なんだ、こりゃ。君らはその格好で試合をするつもりか」私たちは全員裸で素足、しかも練習ボールはアメフトの一個しかなかったのである。日立工場の人たちは、いかにもラグーマンらしくスパイクを履いて、ジャージも着ていた。

「そうです。ですから皆さんも私たちと同じように素足になって下さい」と頼み込む有様だった。

11月末の、退勤後の、北風が吹く寒い夕方だった。グラウンドには試合をする人以外に人影はなく、私たちも掛け声だけが寒空に響き渡っていた。佐藤国夫君にはスタンドオフのポジションをやって貰ったが、さすがにキャプテンだけあって身のこなしも素早く、試合を見る目を持っていたし、タックルも凄まじいものがあった。大和田先生も高等師範でレギュラーだったただけあってフルバックとして正に水を得た河童のような奮戦ぶりだった。結果は15対3で私たちが負けたが、中学生が社会人の、しかも装備の揃っている人たちを相手にしたことを考えれば、満点と言っている試合だった。

私たちは何も分からないままタックルだけは捨て身でぶつかっていたこと。大和田先生のフルバックが敵の攻撃を食い止めたこと。私たちのフォワードが思いの外に強かったこと。大和田先生と佐藤国夫君の身のこなしは日立工場の連中より格段に勝っていたこと。そうしたことが惨敗を食い止めた要因であることが分かった。試合が始まったばかりの頃は、全員がボールの方に集まってしまう、自分のポジションを空にしてしまう始末だったが、大和田先生に怒鳴られ怒鳴られながら、やっとポジションの重要なのがわかってきたのは、試合が終わる頃だった。それにしても皆は試合の意外な結果に満足し、ラグビーの面白さを十分に味わったようだった。

その後、練習は毎日続いた。相変わらず裸足でランニングパスからキック、パント、ドリブル、コンビネーションと冷たい小石混じりのグラウンドを駆け回った。12月に入ると、流石に寒さがこたえて練習も途絶えがちになったが、ラグビーは冬のスポーツであり、歯を食いしばって練習を続けた。擦り剥けた皮膚に血が滲み、そこが赤く腫れて霜焼けになった。お袋は私がびっこを引きながら歩くのを見ると、打撲したところをご飯や酢でこねて冷やしてくれた。

それにしても裸で素足ではどうしようもなかった。私は予科練で着ていた第三種軍装の上着を練習着に直してみた。ボタンを全部とって前身頃をミシンで縫い合わせ、頭から被るようにした。色が国防色だったので、黒の染料を使って真っ黒に染めてみた。

国防色の第三種軍装は、見事に練習着に変身した。それを見た部員は「俺たちにも練習着を作ってくれねえか」とばかり、続々と作業着やボロ服を持ってきたのである。私は、それらをみんな練習着にリホームしてやった。持ち寄ってきた服の色はまちまちだったので、黒一色に統一することにした。黒だとどんな色でも染まるからだ。染料は金を出し合って買ってきた。染めるのには私の家の釜を使い、親父が指揮を執って総掛かりで染めた。親父は染物屋にも奉公していたことがあるので、染め方は本式だった。中には「まだら」になったものもあったが、まあ、何とか練習着としては見られるものになった。

皆は日中オールブラックスとばかり歓声を上げて悦に入っていた。(補注：善充の実家は洋服業を営んでいた。)

次は、スパイクの問題を解決しなければならなかった。幸いにも私は予科練から支給された飛行兵の半長靴があったので、これを靴屋に持って行ってスパイクに改造して貰うことにした。靴屋も初めての仕事なので自信がなさそうだったが、見本を多賀工場の先輩から借りてきて、それを見ながらどうやら仕上げる事が出来た。履き心地は満点だった。しかも、注文靴というだけあって私も足にピッタリとフィットした靴を履いただけでラグビーが巧くなったような気がした。この靴作りも部員たちは私の方法を真似た。お陰で私の頼んだ靴屋はそれ以後、ラグビー部の専属靴屋みたいになってしまった。(中略)

当時県下でラグビー部があるのは日立中学だけで、日常の対戦相手は、日立工場や多賀工場、日立鉱山の社会人や多賀高専といった専門学校などに限られていた。しかし、社会人との試合は楽しかった。

負けて元々という気持ちがあったし、それに社会人チームは子供相手ということもあって私たちを大切に扱ってく

れた。社会人には、熊谷、坂根、笹村などという巨漢がいて「お前たちがタックルに来て独活の大木に蟬がとまったようなものだ」と傲然としていたが、子供ながら彼らに敢然とタックルを仕掛けたものだ。特に日立鉱山では試合終了後には必ず風呂に入れてくれた。多賀高専（現在の茨城大学工学部）には陸軍士官学校や海軍兵学校の学徒兵出身がいて強かったが、俊敏な私たちは彼らと互角の試合をした。（中略）

ラグビーは、目立ちたがり屋は「スタンドプレーヤー」と言って忌み嫌う。自己犠牲のスポーツであり、チームを大切にするスポーツである。俺が俺がといっても相手は15人である。1人で頑張っても忽ちツブされてしまう。自分がツブされてもボールを生かし、仲間にトライさせるのがラグビーである。ALL FOR ONE, ONE FOR ALLというのが、ラグビーの真骨頂である。体と体のぶつかり合い、雨が降っても雪が降っても、定められた日には必ず試合をする。審判の判断には文句を言えない。そこに男の美学がある。私はそんなスポーツに惚れ込んでしまったのだ。

※ 補注：父・善充は平成21年11月に亡くなりました。これはその遺稿「自分史 太平洋戦争編」から日立一高ラグビー部結成にまつわる部分を抜粋し、一部手直ししたものです。（編集責任 長女 島田充子 昭和53年卒）

○ 全国大会県予選の組み合わせが決定しました。

平成24年度全国大会県予選の組み合わせが下記のとおり決まりました。

第1戦（2回戦）	10月20日（土）14：00	堀原運動公園競技場	vs	三和高と合同Cの勝者
第2戦（準々決勝）	10月27日（土）11：40	〃	vs	つくば秀英高
第3戦（準決勝）	11月 4日（日）11：00	水戸市立サッカー・ラグビー場（ツインフィールド）		
第4戦（決勝）	11月11日（日）13：00	ケーズデンキスタジアム水戸		

順当にいけば、第2戦は関東大会県予選決勝で、19-31と惜敗した「つくば秀英高」と、またも対戦します。夏を乗り越え、逞しさを増した現役部員たちが、私立4強の一角を崩し、さらに上位を目指してくれることを期待しています。

皆さんの声援が、部員への大きな励ましになります。どうか、多くの方々がグラウンドにおいていただき、激励してくださいようお願いいたします。（組合せ等の詳細は、OB会ホームページをご覧ください。）

○ 「誌上広告」について

OB会の財政安定化をはかるため、今年度もOB会員等が経営する会社等の広告を掲載しています。（次頁参照）
広告料は年1回発行で1口1万円以上ですが、12人のOBとOB会役員・父母の会の皆様から、合計215,000円のご協力をいただきました。

ご協力をいただいた皆様には、この誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。

○ 編集後記

今回は「特別寄稿」として、平成21年11月に逝去された、OB会元副会長の岩路善充さん（昭和23年度 第1回卒）が記した「日立一高ラグビー部起源」を掲載しました。

これは、岩路先輩の長女の島田充子さんから寄せられたものです。

現在も続く、日立一高ラグビー部伝統の「黒ジャージ」誕生にまつわるエピソードや、終戦後、焼け野原となった日立の街で、ラグビーに情熱を傾けた若き日の岩路先輩たちの様子などが生き生きと記されており、感銘を受けるとともに、貴重な資料として後輩たちに伝えたいと思い、掲載させていただきました。

日立一高ラグビー部は4年後に創部70周年を迎えます。70周年、更には来るべき100周年に向けて、伝統の灯を絶やさず、継続し、更に発展していけるよう、OBの皆様の御協力と御支援を切にお願いいたします。

（編集スタッフ一同）

日立一高ラグビー部OB会報 第15号

発行責任者：幹事長 木下 俊雄（昭和54年度 第32回卒）

事務局長 金澤 勉（平成4年度 第45回卒）

問合せ先：〒317-0065 日立市助川町3-7-4 木下俊雄 【電話】0294-21-4890（FAX同じ）

石井米店

店主 石井 博美

(昭和41年度 第19回卒)

〒318-0021 高萩市安良川270番地

電話: 0293-22-3157

株式会社岡部工務店

代表取締役 岡部 英明

(昭和51年度 第29回卒)

〒316-0003 日立市多賀町2丁目10番7号

電話: 0294-36-1681

有限会社 川西砕石

常務取締役 杉浦 巖夫

(平成7年度 第48回卒)

〒316-0001 日立市諏訪町1275番地の2

電話: 0294-33-0359

秋光電気工事株式会社

代表取締役 秋山 啓市

(昭和49年度 第27回卒)

〒316-0003 日立市多賀町1丁目20番22号

電話: 0294-36-1987

株式会社トップペイサービス

代表取締役 後藤 秀次郎

(昭和41年度 第19回卒)

〒272-0144 市川市新井3丁目15番28号

電話: 047-396-7176

弁護士法人 萩原総合法律事務所

代表弁護士 萩原 慎二

(平成4年度 第45回卒)

〒308-0041 筑西市乙828番地の3

SATOビル2階

電話: 0296-48-8875

日立一高ラグビー部OB会 役員会

会長 尾又 篤 ほか

(昭和36年度 第14回卒)

茨城クリーン有限会社

代表取締役 夏井 一郎

(昭和37年度 第15回卒)

〒310-0804 水戸市白梅3丁目10番5号

電話: 029-231-7741

尾又運送株式会社

代表取締役 尾又 篤(昭和36年度卒)

取締役 尾又 彰彦(平成2年度卒)

〒316-0035 日立市国分町3丁目11番7号

電話: 0294-36-2856

株式会社 カントウスプレー

代表取締役 本田 浩一

(平成2年度 第43回卒)

〒317-0054 日立市本宮町3丁目32番12号

電話: 0294-22-0807

鈴菊商店

代表 鈴木 真治

(平成2年度 第43回卒)

〒319-1701 北茨城市平潟町293番地

電話: 0293-46-5110

肉の登利要 日立店

店主 古口 利博

(昭和39年度 第17回卒)

〒317-0073 日立市幸町2丁目8番14号

電話: 0294-21-0971

村山商店

代表 村山 功

(昭和42年度 第20回卒)

〒319-1702 北茨城市大津町2731番地1

電話: 0293-46-0172

日立一高ラグビー部 父母の会

会長 鈴木 茂夫

(ほか 保護者一同)

私たちは、日立一高ラグビー部を応援しています！